

蕃椒
名稱

〔書言字考節用集生六〕タウガラシ白芥カウライゴセウ蕃椒同

〔物類稱呼生三〕蕃椒たうがらし 京にてかうらいごせうと云、大閩秀吉公朝鮮を伐ち給ふ時種を取來る、故に此名有、西國及奥の仙臺にてこせうといふ東國にて眞の胡椒を出羽にてとこぼしといふ、但奥羽のうちにてもなんばんと稱する所もあり、上總及參遠にてなんばんといふ、越前にてまづものこなしといふ是は江戸にて番匠の隠語に、か

〔倭訓彙後編十一〕たうがらし 蕃椒也、秀吉公朝鮮征伐の時種を得たり、よて高麗胡椒といふと、

貝原氏説也、色に黃赤ありて百餘品に及べり、出羽にとこぼし、參遠總に南蠻、西國仙臺に胡椒といふ、東國に眞の胡椒をえのみこせうといふ、味甘き一種あり、

〔内安録〕長崎にて蕃椒を胡椒と唱へ、トウガラシは、唐を枯しといふ同音なれば、必ず胡椒といふ、長崎の地役人共、唐船の爲に扶助せらる、なれば、唐國を尊み敬ふ事如此、

蕃椒種類

〔成形圖説二十五〕唐芥タウガラシ言にマヅモノコナシなども呼べり、里ナシ南蕃胡椒コセウ或説に原その種を蕃國

かく即蕃地より我東北國にてはた南蕃とのみいひ、九州地方にては胡椒とのみいふ、胡椒カウライ胡椒コセウ或曰、豊太閩朝鮮を征れし時に、此種を携カウライ胡椒來しより、この名ありといへり、○中略

大なるは實の長さ五六寸にいたる、幹立は七八尺に近し、頃間花師養得て目て一丈紅といふ、小なるは鳩爪の如し、目て鷹爪といふ、圓大なるは王瓜カラスワリの如く、微尖あり、目て胡椒コセウ胡椒と云、圓小なるは南天燭子の如し、その實上に向ふをば天上守テンシヤウモリなど呼べり、蓮生ハシ八ハシ云、白花ハシ又下に垂るものを垂胡椒サカリとも、下胡椒ウタリとも稱ふ、一種短肥にして味辣からずて甘きものあり、是を甘唐辛子アマタウガラシといひ、黃熟のを黃唐辛子ワウタウガラシといひ、金橘キンキウの如きのを金柑キンカン唐辛子タウガラシなど呼べり、其種族多く皇國に入て化

生れるなり、蓋暖地に生ものは最辣し、本藩鹿兒島南邊に生ふるは愈太く愈辛し、其木冬を經て稿れず、又南島に及び沖繩に至りて皆木本となりて、高さ四五尺に長ッ、宛然として一灌木に似